



Rubyにみる分散開発OSSコミュニティ

Ruby Association

Yukihiro "Matz" Matsumoto
@yukihiro_matz



コロナ時代



リモートワーク



新しい働き方



多様化する選択肢



よいこと



田舎で暮らす、とか



自宅で働く、とか



なんかずっと前からやってた、ような



オープンソース開発



厳密には「オープンソース」ではない



Open Source Definition



ソーシャルコーディング



コミュニティベース開発



田舎でも働ける



自宅でも働ける



ずっと前からやってた



經驗者



コツを伝授



1. 方向性と哲学の提示



ひとり開発なら不要



「良いソフトウェアを作りたい」



みんなの気持ち



「良い」の定義



人によってバラバラ



「良い」を定義する



プロダクトオーナー



プロダクトマネージャー



哲学による求心力



「たのしいプログラミング」



「簡潔さはパワー」



「簡潔さはパワー」



2. ツールによる支援



git



分散バージョン管理



バージョン管理の嬉しさ



開発専用タイムマシン



分散の嬉しさ



ランチの嬉しさ



redmine



イシュー管理



「イシューからはじめよ」



ポケット1つの原則



「忘れる」



開発者の最大の敵



どこかに集約する必要がある



イシューは中心になれる存在



問題の管理



問題意識の管理



(我々の)課題



発散した議論のサマリー



フロー→ストック変換



Wikiを使いこなせてない



ソースはgitに中心を置く



意思決定はredmineを中心に置く



ツールによる支援



円滑な意思決定



円滑な開発



Q. コンフリクトはどうするの



A. 気にしない



問題があれば積極的にリバート



大事なものはコードより知見



ソーシャルコーディング



ポストコロナ開発のあり方



かもしれない



ありがとうございました